

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	POCCOかいりゅうおう		
○保護者評価実施期間	2024年11月7日		～ 2024年11月22日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	38人	(回答者数) 26人
○従業者評価実施期間	2024年11月11日		～ 2024年11月26日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6人	(回答者数) 6人
○事業者向け自己評価表作成日	2024年12月6日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	多くの利用者が通所を楽しみにしており、安定した利用者数を確保している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども達の「やってみたい」という気持ちを大切に、活動計画に反映させている。</li> <li>・一人ひとりの個性やペースに合わせた支援を心がけ、安心して楽しく活動に取り組める環境を提供している。</li> </ul>	一人ひとりのニーズに合わせた活動の提供や選択制の取り入れなど、子ども達が主体的に活動に参加できるように工夫していく。
2	職員同士が互いの意見を尊重し、意見交換を行いながら、より良い支援の質向上に努めている。	PDCAサイクルを意識し、子ども達の成長を促すための支援を行っている。特に、毎回の活動後の振り返りを通して、次の活動に活かせるよう工夫している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日々の観察を通して、子ども達の変化を捉え、より効果的な支援へとつなげていく。</li> <li>・研修などを通じて積極的に知識やスキルを習得し、専門性を高めていく。</li> </ul>
3	調理活動を活発に行い、5つの発達領域を総合的に支援することで、生活スキルの向上を目指し、自立を促している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・同じ料理を、食材や味付けを少しずつ変えながら繰り返し作ること、計量や調理の手順の定着を図っている。</li> <li>・食材の選定、買い出しから調理、後片付けまでの一連の流れを体験することで、生活に必要なスキルを楽しく身につけることができている。</li> </ul>	発達段階や興味関心に応じて、簡単なレシピを一人で完成させたり、少し難しいレシピに挑戦する機会を設けるなど、少しずつレベルアップできるよう、個別の支援も充実させていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者や地域との連携の強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報伝達が一方向的で、双方向のコミュニケーションが不足している。</li> <li>・定期的な情報共有が不足している。</li> <li>・地域との交流の機会が少ない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者と支援者、保護者同士が気軽に情報交換できる交流の場を設ける。</li> <li>・保護者と面談の機会を設けるなど、連携を密にする。</li> <li>・地域のイベントに参加したり、地域のボランティアを活用するなど、地域との交流を深めていく。</li> </ul>
2	より安全で快適な環境の整備 <ul style="list-style-type: none"> <li>・個別スペースの確保</li> <li>・リフレッシュスペースの確保</li> <li>・更衣スペースの確保</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・玩具や用具など、物が増えて、収納スペースが不足している。</li> <li>・相談室にも物が多く、集中やリフレッシュのスペースとしての活用が難しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不要なものを処分し、収納の見直しや家具の配置を変更して、快適な空間をつくる。</li> <li>・リフレッシュコーナーの設置を工夫する。</li> <li>・カーテンなどを設置してスペースを確保する。</li> </ul>
3	安全管理・危機管理意識の強化 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ヒヤリハットの記録や共有が十分に行われていない。</li> <li>・災害時・緊急時の対応方法についての保護者との情報共有や連携</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヒヤリハットの重要性が十分に認識されていない。</li> <li>・ヒヤリハットの基準が曖昧で、「危ないかも」という小さな危険信号が見落とされている。</li> <li>・災害時、緊急時の対応方法など、保護者への周知が十分でない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヒヤリハット報告の重要性について、周知徹底する。</li> <li>・毎日のミーティングでヒヤリハット情報を共有し、安全に関する意識を高めていく。</li> <li>・避難訓練の様子をSNSなどで発信する。</li> <li>・保護者参加型の緊急時連絡訓練を実施する。</li> </ul>